

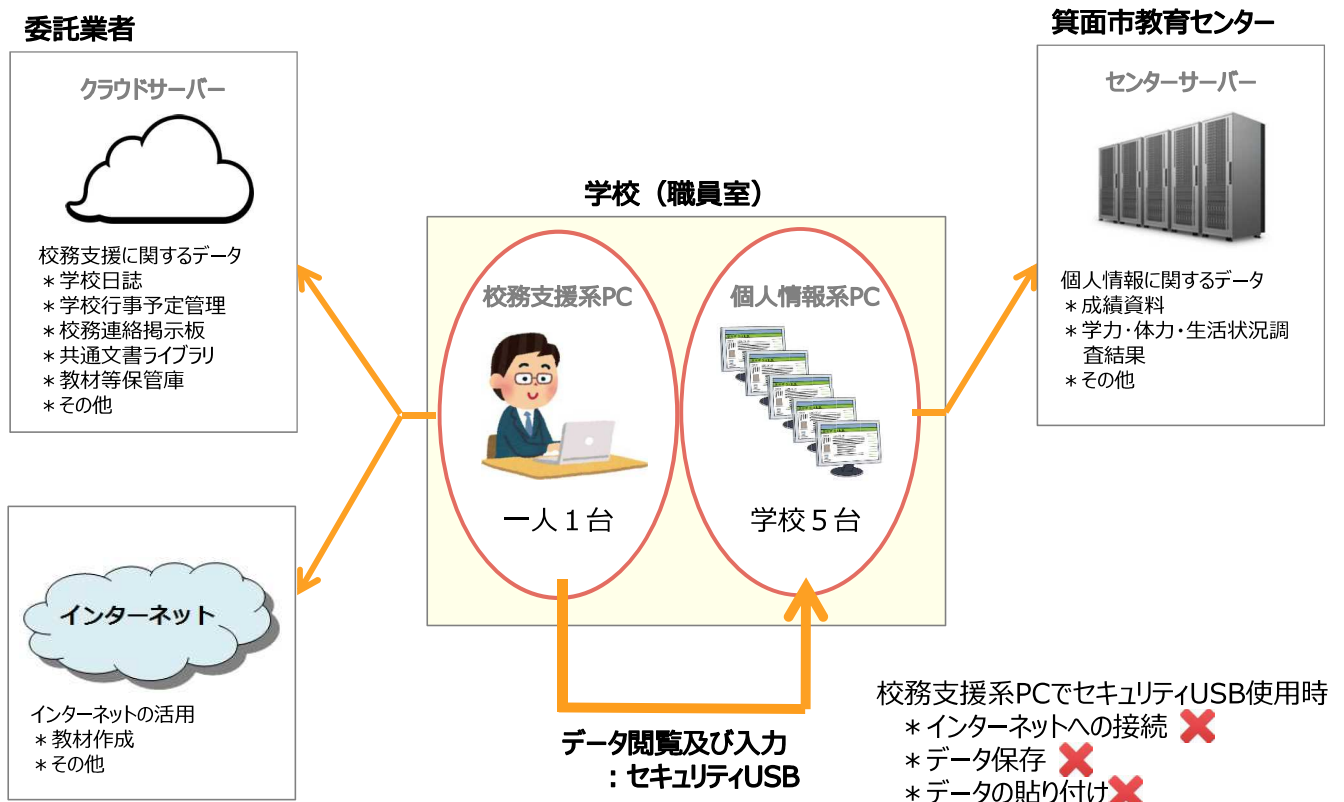
# 学力・体力・クラスの状態の定量的把握と データに基づいた教職員の指導力向上について

小中9学年・毎年・全数調査「箕面市子どもステップアップ調査」の実践事例から

平成28年7月 大阪府箕面市

## 箕面市のシステム構成

箕面市では、市教育センターにサーバーを置く「個人情報系ネットワーク」と、教職員一人1台のインターネットに接続可能な「校務支援系ネットワーク」があります。



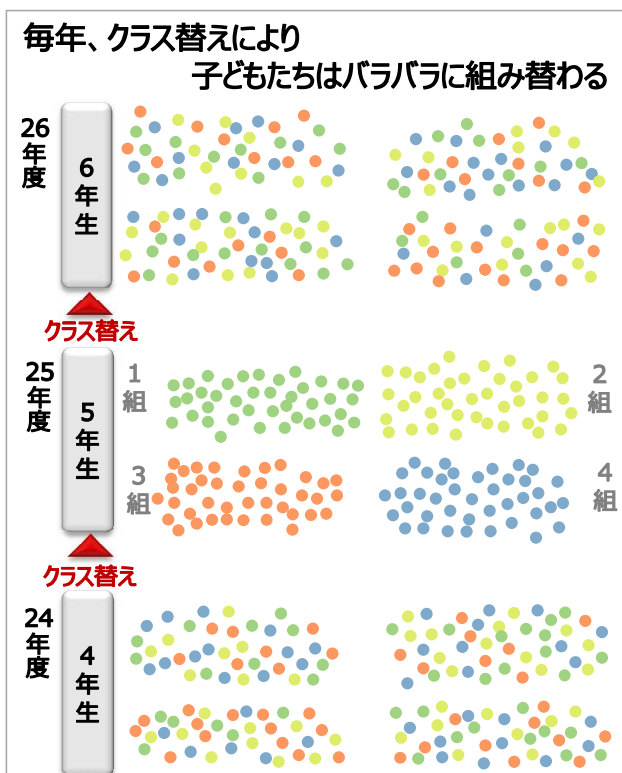
箕面市では、小学1年生～中学3年生まで **全9学年**で、**毎年**、子どもたち一人ひとりの状況を、全方面（学力・体力・生活）について調査・把握しています。（平成24年度～）

●が独自調査

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
		(小1)	(小2)	(小3)	(小4)	(小5)	(小6)	(中1)	(中2)	(中3)
学力調査	全国学力学習状況調査						● 3教科			● 3教科
	学力調査	● 2教科	● 2教科	● 4教科	● 4教科	● 4教科	● 4教科	● 5教科	● 5教科	
	英語能力判定テスト								●	
体力調査 (●は全国調査に参加)		● 3種目	● 3種目	● 3種目	● 5種目	● 8種目	● 8種目	● 8種目	● 8種目	● 8種目
生活状況調査		●	●	●	●	●	●	●	●	●

2

全学年・毎年・一人ひとりのデータを把握し続けていないため、「同一の集団」での比較ができず、科学的な分析ができません。



▶ 毎年度の特定の学年を比べても…  
(例：全国学カテスト)

年度	学年	偏差値
26年度	5年生	48.9
25年度	5年生	52.1
24年度	5年生	50.5

比較しても意味がない

そもそもまったく違う学年の子どもたちである

▶ 前年度のクラスと比べても…

年度	学年	偏差値
26年度	5年1組	52.5
25年度	4年1組	49.8
24年度	3年1組	53.1

経年変化がわからない

クラス替えによりまったく別の子どもたちになっている

▶ 同じ学年のなかで比べても…

年度	学年	偏差値
26年度	5年1組	52.5
	5年2組	48.9
	5年3組	53.1
	5年4組	49.2

集団間の差の要因が分析できない

たまたまできる子が多いのか、今、伸びているのか、わからない

毎年、個のデータを把握し追跡することで、「同一の集団」での分析を可能とすることが重要です。

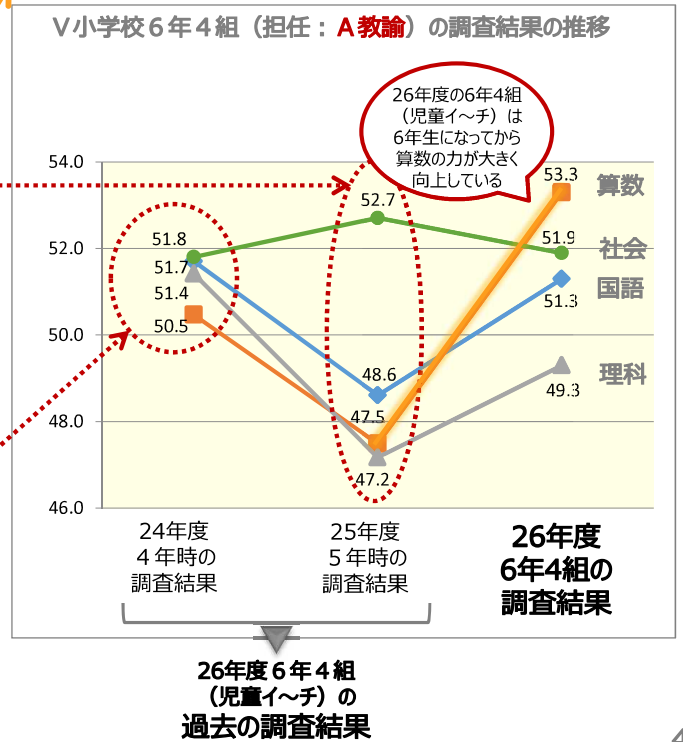
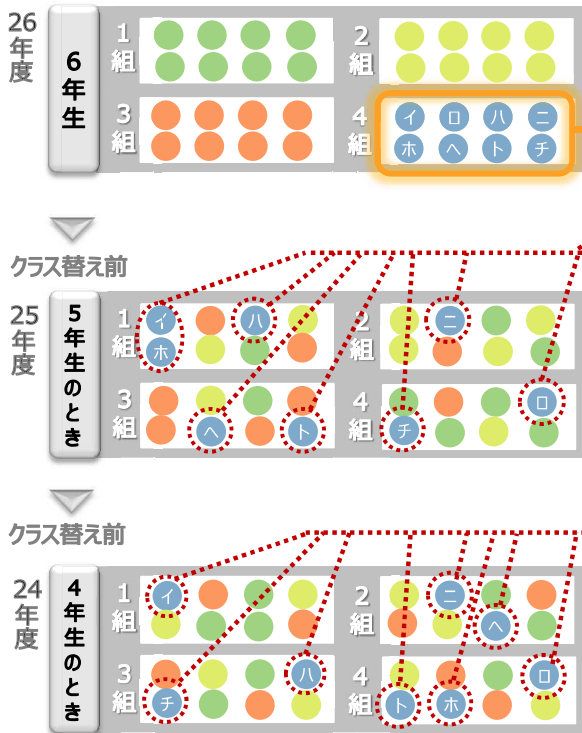
3

# 集

## 団の組み替えで過去を正確に追跡

全学年・毎年・一人ひとりのデータがあれば、クラス替えがあっても集団を組み戻して、同一の集団の経年変化を追い続けることが可能になります。

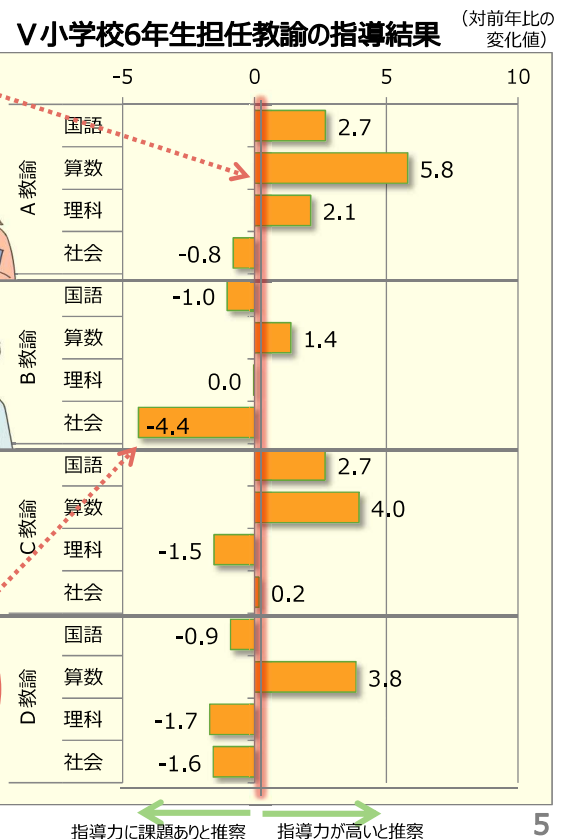
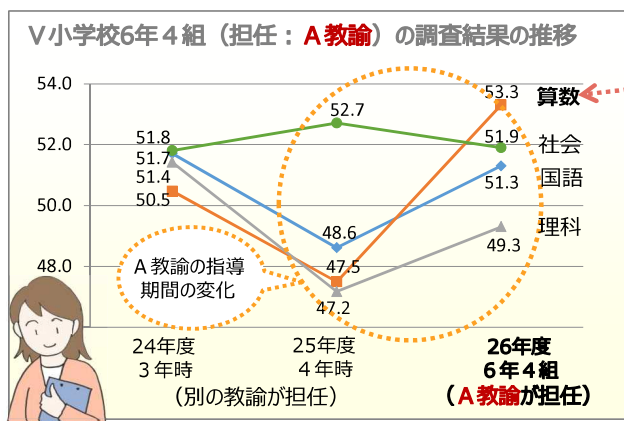
【例】H26年度 6年4組児童の調査結果の推移



# 教

## 員の指導結果を客観的に把握

集団の経年変化を追うと、教科ごとの実力の変化を定量的に把握できることから、担任教諭の指導結果を客観的に比較することが可能になります。



# 教

## 員の指導力や適性を把握することも可能

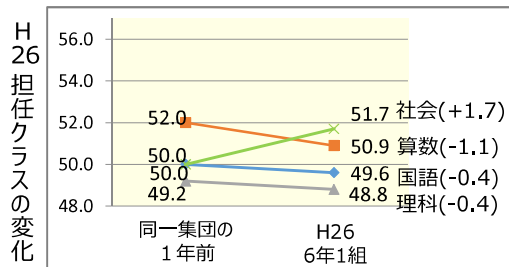
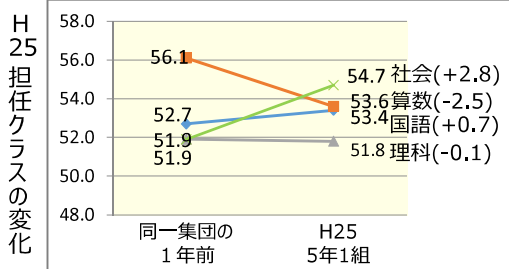
ある教員が過去に担任した複数のクラスの、担任期間中の変化傾向を見ることで、その教員の指導力や適性なども把握できます。

### E 教諭について分析します

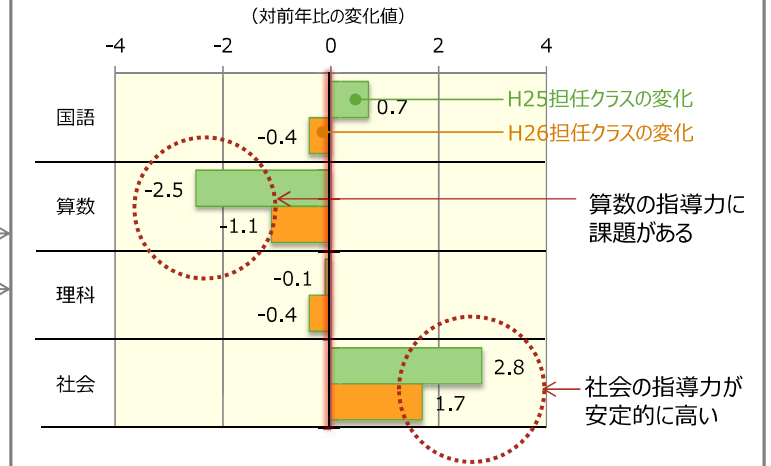


#### E 教諭の担任履歴

- ・H25年度 5年1組を担当
  - ・H26年度 6年1組を担当
- ※クラス替えをしているので別の集団



### E 教諭が担任したクラス（2カ年）の変化 (= E 教諭の指導力)



さらにデータの蓄積が進めば、様々な要素の分析が可能に

#### 分析例

- ・低学年よりも高学年を担当した年度の学力向上が顕著である
- ・年々、指導力の向上が見られる
- ↳ 高学年の担任に適性が高い
- ↳ 研修の効果が上がっている

# 学

## 級経営力を客観的に計る

学力や体力だけでなく、生活状況調査（「学級の絆」「学級の規範意識」）の回答からクラスの状態を知ることができ、6月と12月の調査結果の比較から、教員の学級経営力を計ることも可能です。

#### 「学級の絆」の質問事項

1. あなたのクラスには、リーダーに相応しい、みんなが頼りにしている人がいますか。
2. あなたのクラスには、いいところがあると思いますか。
3. 球技大会やクラスの発表会があるとき、あなたのクラスは盛り上がり、団結しますか。
4. クラスの中で、誰かが困っているとき、みんなで、その人を助けてあげよう、励ましてあげようという雰囲気が、あなたのクラスにはありますか。
5. あなたは、クラス全員の、一人ひとりのいいところを、言葉にして言うことができますか。
6. 今のクラスが好きですか。
7. 先生はクラスみんなのことを、褒めたり、励ましたりしてくれますか。

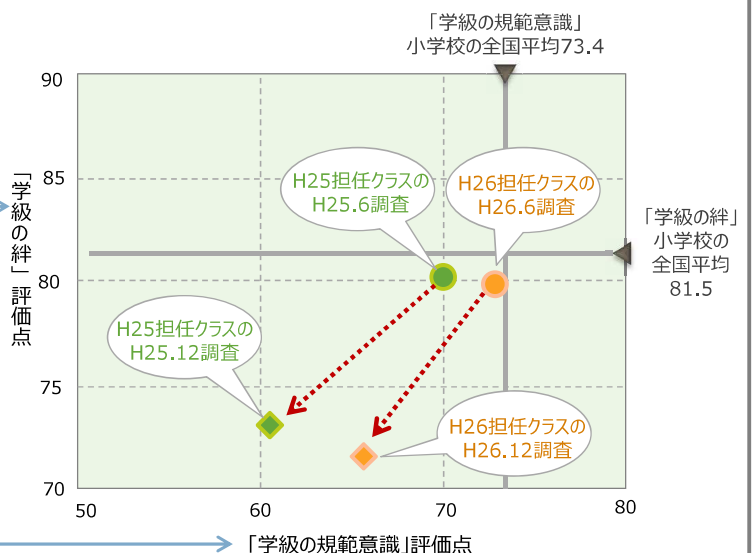
#### 「学級の規範意識」の質問事項

1. あなたのクラスでは、みんなが掃除当番や係の仕事、責任をもってしていますか。
2. あなたのクラスでは、みんなが先生の言うことを守っていますか。
3. クラスの人がふざけたり、おしゃべりをしたりして、授業に集中できないことがありますか。



### E 教諭が担任したクラスの調査結果（2カ年）

\* 2カ年とも、「絆」「規範意識」ともに大きく低下している (= 学級経営力に課題がある)

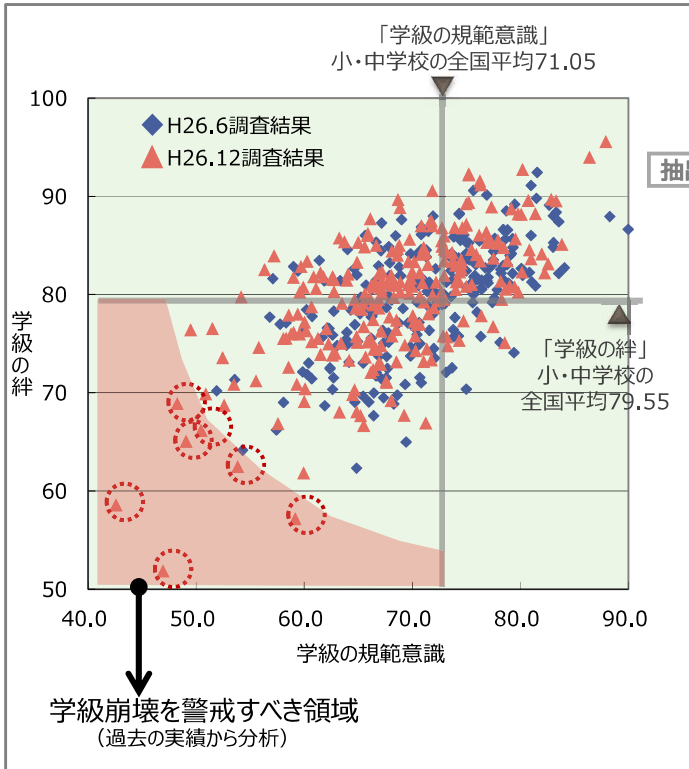


# 学

## 級崩壊の兆候を早期に把握

前ページの調査結果（クラスの状態）について、全学年を客観的に観測することで、担任教諭の肌感覚に頼らず、管理職などが学級崩壊の兆候を早期にキャッチすることが可能です。

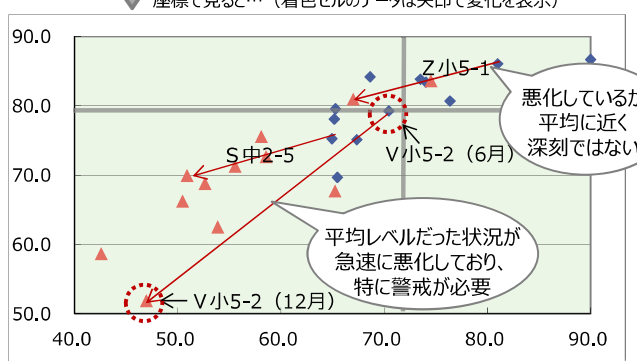
平成26年度【小3～中3全クラス】調査結果分布



6月→12月の変化量が▲15超のクラスを抽出

学校 学年学級	H26.6		H26.12		変化量
	学級の規範意識	学級の絆	学級の規範意識	学級の絆	
Z小5-1	81.0	86.0	67.0	80.9	-15
Z小6-2	73.5	83.8	55.6	71.2	-22
Y小3-2	65.2	78.0	53.9	62.4	-19
Y小5-2	74.0	83.4	58.1	75.4	-18
X小6-4	67.4	75.0	42.6	58.5	-30
W小6-2	68.6	84.1	58.6	72.5	-15
V小5-2	70.5	79.2	46.9	51.8	-36
U中1-2	90.0	86.6	74.5	83.5	-16
T中1-4	65.5	69.6	50.5	66.1	-15
T中3-1	65.3	79.5	52.6	68.7	-17
S中1-6	76.4	80.7	65.2	67.6	-17
S中2-5	65.0	75.2	50.9	69.8	-15

※座標平面上のベクトル変化量

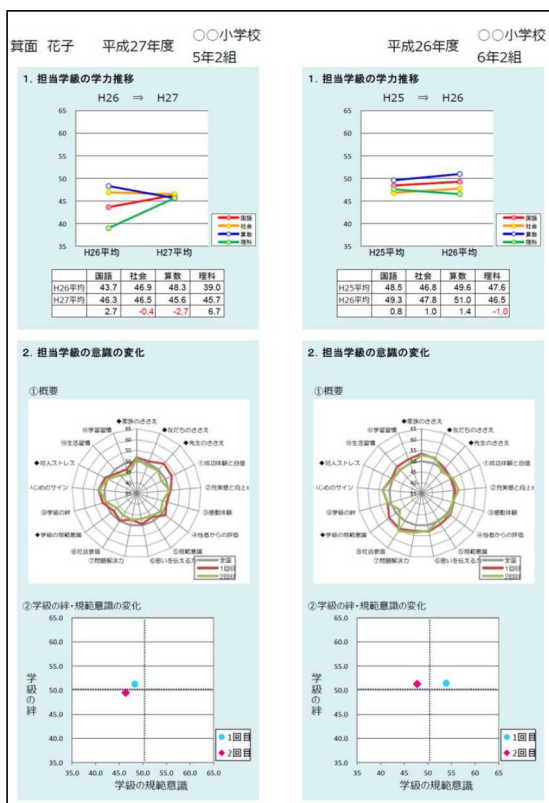


# 指

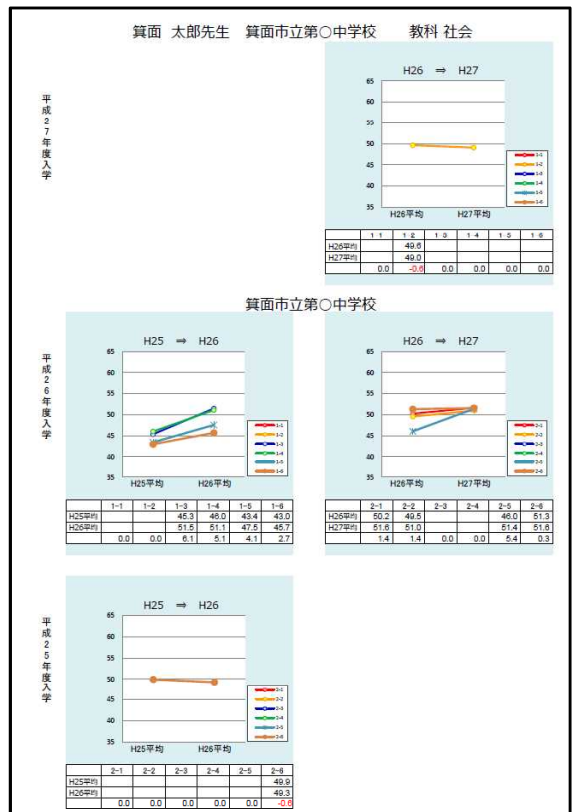
## 導育成への活用

校長に、教員一人ひとりの個表を渡し、教員の授業力育成のためのデータとしました。校長は、このデータを元に授業観察や面談を行いました。

小学校教員の個表



中学校教員の個表



教員の指導力を客観的に比較できるため、教科指導に成果を上げている教員と課題のある教員を把握し、有用な指導技術を校内で共有するなど研修に反映したり、管理職による指導育成に活用できます。

また、教員自身が自らの授業力を客観的に知ることで、授業改善を促しやすくなります。

### 教員個人への活用

#### ▶ 有用な指導技術の共有

指導に成果を上げている教員の授業方法を分析し、指導技術が有用であれば、研修などを通じて共有

#### ▶ 指導に課題のある教科の改善

教科指導に課題のある教員を把握し、改善に向け、個々に具体的な研修計画等を組むことができる

#### ▶ 教員本人の「気づき」

児童生徒に「よくわからない」と言われたとき、子どもの問題なのか、自らの指導法の問題なのか、立ち止まって考えるきっかけとなる

教員自身が自らの授業を顧み、他の教員の指導法に目を向け、今後の研鑽に活かすきっかけとなる

#### ▶ 教員の学級経営力を把握

教員が学級に規律を根付かせ、子ども同士互いに思いやる心を育む取り組みの成果を把握し、改善指導などに活かすことができる

### 組織としての活用

#### ▶ 管理職による指導技術の分析

さまざまな教員の授業方法と指導成果の相関関係を分析し、有用な指導技術の確立に活かす

#### ▶ 管理職による評価育成

各教員の伸ばすべき資質と課題を客観的に把握し、評価育成面談時に伝えて共有することで、良い面を伸ばし、課題の改善に取り組むことができる

#### ▶ 校内人事の参考

これまで校長の主観に頼っていた人事において、授業力や学級経営力を参考に、教員をバランスよく配置できる

#### ▶ 学級崩壊の兆候を知る

客観的な指標で「絆」「規範意識」を追跡することにより、管理職などが学級崩壊の兆候に早期に気づくことができる

#### ▶ 市全体の人事異動・人材登用の参考

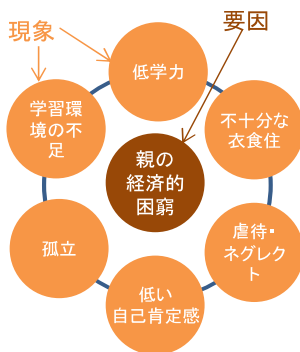
学校内だけでなく学校間で客観的に比較できることから、管理職候補を見極めたり、学校間の人事異動に活用することができる

## 【追加】環境因子のある子どもを追跡し続けるデータベースシステムの構築

現在、子どもの情報も、子どもの家庭に関する情報も、学校内や行政の様々な部署に散在しています。これらを集積し、子ども個人に結びつけるとともに、その情報を過去分から蓄積し、変化を追跡できるデータベースの構築が必要です。

情報には、①親の経済的困窮を推定できる情報

②経済的困窮を要因として発生している現象 の2種類があります



子どもの状況は見えるが根本にある貧困が見えない情報

- 現象
- 学力・体力調査結果
  - 生活状況調査結果
  - 日常の行動・衣服などの状況
  - 乳幼児健診・学校健診の結果
  - 虐待に関する通報・対応状況

家庭の困窮は推定できるが子どもの状況が見えない情報

- 要因
- 生活保護の受給状況
  - 児童扶養手当の受給状況
  - 保育料算定時の所得状況
  - 給食費等の滞納状況
  - 就学援助の受給状況

子ども個人をキーに名寄せすると...

見守りが必要な子どもが見えてくる  
(経済的困窮)

支援が必要な子どもが見えてくる  
(経済的困窮+子どもの変化)

支援を受けている子どもの現況がわかる  
(親の状況+子どもの状況)

支援を受けている子どもの経年変化を追跡できる  
(子どもの変化+集団の変化)



A君のデータ

学年	学力調査	生活状況調査	学校健診	虐待通報	担任観察	生活保護	就学援助
小1	+5	±0	異常なし	なし	問題なし	非該当	受給
小2	+2	△5	異常なし	あり・経過観察	要観察	非該当	受給
小3	△8	△10	发育遅れ	あり・対応	問題あり	受給	受給
小4	△9	△8	发育遅れ	なし・経過観察	問題あり	受給	受給